

平成30年度 日本 NGO 連携無償資金協力  
クラチエ州における小児外科診療体制強化事業  
(1年次)

完了報告書

2020年5月



公益財団法人 国際開発救援財団

## 日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

|                        |  |
|------------------------|--|
| 1. 基本情報                |  |
| (1) 案件名                | クラチェ州における小児外科診療体制強化事業  |
| (2) 事業地                | カンボジア国クラチェ州  |
| (3) 贈与契約締結日<br>及び事業期間  | ・ 贈与契約締結日：2019年2月25日<br>・ 事業期間：2019年3月1日～2020年2月29日  |
| (4) 供与限度額<br>及び実績（返還額） | ・ 供与限度額：237,666.00米ドル<br>・ 総支出：208,661.65米ドル<br>(返還額：29,004.35米ドル)   |
| (5) 団体名・連絡先, 事業担当者名    | (ア) 団体名：公益財団法人 国際開発救援財団<br>【法人番号：1010005015999】<br>(イ) 電話：03-5282-5211<br>(ウ) F A X：03-3294-2525<br>(エ) E-mail：koyama@fidr.or.jp<br>(オ) 事業担当者名：小山 直行 |
| (6) 事業変更の有無            | 事業変更承認の有無：<br>(ア) 申請日：2020年1月6日<br>承認日：2020年1月9日<br>内容：第三国医療機関視察研修の視察国、日程、予算の変更  |

| 2. 事業の概要と成果      |   |
|------------------|---|
| (1) プロジェクト目標の達成度 | <p>3か年事業の初年次として、クラチェ州病院外科・手術部職員の診療能力の向上、そして患者を取り巻く保健職員や家族へ正しい知識を届けることに重きを置いて、①クラチェ州病院の外科診療の質を向上する活動、②クラチェ州における患者搬送体制を強化する活動、③住民への知識普及を通じて医療行動改善を図る活動、という3つの軸から活動を展開した。その結果、上位目標を見据えた上で、2年次以降の事業効果の拡大～定着に向けた事業基盤を築くことができたと考える。定量的な数値成果は以下のとおり。</p> <p>① クラチェ州病院の外科診療の質を向上する活動<br/>外科医療の領域で高い専門性が求められる小児外科であるが、特に技術的難度の高い乳児手術(1歳未満児)について、全小児外科手術の件数に占める比率が13.9% (ベースライン10.5%)に増加した。また、事業開始以前は全く行われていなかった看護師間の申し送り(引き継ぎ)が週一度開かれるようになり、職員同士が患者に関わる情報交換を通じて看護サービス改善に役立てようとする意識が芽生え始めている。また、手術棟への機材供与により基本的な外科手術機能が整備できた。これにより、従前の手術室1室体制から脱却し、2室での同時作業が可能となったことで、緊急手術にも柔軟に対応できる体制が整った。また、タイの先進医療機関の視察に参加したカウンターパートはカンボジアとの差異に大きな刺激を受け、目指すべき医療像が明瞭になったと述べている。</p> <p>② クラチェ州における患者搬送体制を強化する活動<br/>対象保健センター8か所の看護師および助産師計69名が「症状から学ぶ小児外科研修」に参加し、初めて小児外科疾患の特徴とその発見方法について学びを得た。これにより、コミュニティに存在する未受診・未治療の潜在的な小児外科患者が早期に発見され、適時に治療を受ける土台が対象地域で整った。</p> <p>③ 住民への知識普及を通じて医療行動改善を図る活動<br/>入院患者とその付き添い家族を対象に患者教育を実施し、計342人の地域住民が手術を受けることで治癒する小児外科疾患を知り、同時に手洗いの正しい手順や感染症の予防など健康意識を改めた。外科看護師が講師を務めており、治療行為以外の病院機能として、利用者に対して保健教育を継続的に提供できる手法やコンテンツが整った。</p> |
| (2) 事業内容         | <p>① クラチェ州病院の外科診療の質を向上する活動</p> <p>1-1. クラチェ州病院職員の知識の向上</p> <p>1-1-1 国立小児病院(NPH)外科職員の指導による研修(座学講義)(2回)</p> <p>1-1-2 州病院職員による症例や治療法に関する院内研修(18回、自己資金含む)</p> <p>1-1-3 国内学会への参加(外科学会1名、麻酔科学会3名)</p> <p>1-1-4 小児外科に関係する州外での研修参加(7人)</p> <p>1-1-5 国内の医療施設への視察研修(1回、コンポンチャム州病院)</p> <p>1-2. 病院マネジメントの強化</p> <p>1-2-1 患者統計データ収集(8回、自己資金)</p> <p>1-2-2 退院後患者のフォローアップ(2回、自己資金)</p> <p>1-2-3 患者満足度調査(1回3ヶ月間、49名から聞き取り)</p> <p>1-2-4 第三国医療機関視察研修(タイ、6名、自己資金含む)</p>  |

|                    |   |
|--------------------|---|
|                    | <p>1-2-5 プロジェクト運営委員会の開催（2回）、病院サービス改善作業部会の開催（2回）および搬送体制改善作業部会の開催（クラチェ保健行政区およびチュロン保健行政区各2回）</p> <p>1-3. 病院機能の強化、院内環境の改善</p> <p>1-3-1 医療機器および手術器具の拡充<br/>     麻酔器（1）、患者モニター（2）、CO2計測付モニター（1）、小児SpO2プローブ（5）、小児喉頭鏡セット（2）、電気メスユニット（2）、小児開腹手術器具セット（1）、小児ヘルニア手術器具セット（1）、小児虫垂炎手術器具セット（1）、救急カート（1）、吸引器（2）、手術灯可動式（1）、手術灯吊り下げ式（1）を供与、および適切な使用方法に関する研修。</p> <p>1-3-2 外科病棟の移転新築に向けた詳細設計図作成、地盤調査実施、数量表作成およびカウンターパートへの説明会の実施と合意形成（自己資金）</p> <p>1-4. NPH外科職員のリーダーシップ強化</p> <p>1-4-1 国内学会への参加（外科学会14名、麻酔科学会18名）</p> <p>② クラチェ州における患者搬送体制を強化する活動</p> <p>2-1. 救急搬送に関する基礎的能力向上</p> <p>2-1-1 保健スタッフ対象の「患者搬送と新ガイドライン研修」の開催（1回、56名）</p> <p>2-2. 保健センター職員への知識普及</p> <p>2-2-1 保健センター職員等対象の「症状から学ぶ小児外科研修」の開催（9回、233人）</p> <p>2-2-2 看護学会は2019年から高官のスピーチ中心のセレモニー色が濃い内容となり、目的とする趣旨とは異なるため参加を見送った。代替として、保健省主催の新任看護師研修へ外科看護師を派遣（1名）</p> <p>2-3. シンポジウム・啓発教材による知識普及</p> <p>2-3-1 シンポジウム「症状から学ぶ小児外科」の開催（1回、57名）</p> <p>2-3-2 症状から判断できる小児外科疾患の啓発ポスターと学習資料を作成し、「症状から学ぶ小児外科研修」参加者へ配布（233セット）</p> <p>③ 住民への知識普及を通じて医療行動改善を図る活動</p> <p>3-1. 入院患者への情報提供</p> <p>3-1-1 患者・家族への保健教育（342名、13回）</p> <p>3-2. コミュニティへの情報提供</p> <p>3-2-1 地域住民への小児外科啓発教育として保健スタッフとともにコミュニティFMを通じて情報発信（1回、自己資金）</p> |
| <p>(3) 達成された成果</p> | <p>成果1. クラチェ州病院において、外科の診断と治療が適切に行われる</p> <p>1-1 小児外科入院患者数、手術件数<br/>     ベースライン 436人、275件<br/>     1年次指標 480人（10%増）、303件（10%増）<br/>     1年次実績 466人（6.9%増）、274件（0.4%減）【未達成】</p> <p>→患者数増、手術件数はほぼ横ばいとなった背景には、これまで大半の手術を担っていた医師が2019年途中の人事異動により手術担当シフトから外れたことで、手術担当外科医3名中2名が若手の体制となったことがある。小児外科は専門性が高く経験が求められるが、若手が手術可能</p>   |



な疾患は限られ、これまでは手術可能だった症例も首都へ搬送せざるを得ず、入院患者および手術件数ともに件数が抑制された。保健省の意向に基づく病院人事への干渉は不可であり、事業の外部条件の変化として受容せざるを得ない。よって、事業終了後も州病院が地域の拠点病院として動き続けるためにも、2年次では今後の主力となりうる若手の技術向上に重きを置く旨カウンターパートと合意しており、彼らの関心分野であり手術ニーズの高い小児の整形外科分野にフォーカスを当てた指導を実施し、可能な術式の幅を広げて件数のさらなる増加を目指す。

#### 1-2 チーム医療の実践

##### 1) 外科スタッフ間の申し送り実践度

ベースライン 0回/週

3年次指標 6回/週

1年次実績 1回/週【一部達成】

→以前は行われていなかった朝の申し送り（当直から日勤へ）を1年次では導入することができた。これにより、患者の出入りや処置・投薬の実施有無が引き継がれるようになり、各患者に必要な処置が確実に行われるようになった。また、科内の問題意識共有の場にもなり、サービスの向上に資する場となっている。2年次では患者情報の共有の重要性を認識し、実施曜日を増やすことに取り組む。

##### 2) 外科患者カルテ記載状況

ベースライン 記入漏れ多し

3年次指標 十分に情報を網羅

1年次実績 記入はされているが、記述の正確さが求められる【一部達成】

→医師による術後所見では、例えば「腫瘍切除」など簡潔な術式が記されているのみで、部位や術後処置の指示が不明確な場合が散見され、看護師の処置や統計データ管理上、問題がある。1年次で記入漏れは改善できたことを踏まえ、2年次ではカルテの情報がどのように活用されるべきか医師と見解を統一して記述の精度を改善する。

#### 1-3 患者満足度

クラチェ州病院の外科診療に関する患者満足度におけるネガティブな回答の割合

「手術前に治療の詳しい説明を受けたか」等の24の質問項目に対するネガティブな回答の割合

ベースライン 29%

1年次指標 20%

1年次実績 4%【達成】

→小児外科患者の保護者49名に面談式の個別インタビューを3か月間実施。全体的に好意的な回答結果が得られ、特に職員の態度・接遇に関する評価がベースライン時と比較して高評価が得られた。院内研修を通じた仲間同士の話し合いや、患者教育での利用者との触れ合いを通じ、外科職員一人ひとりの中で意識の変容が顕れ始めている。

#### 1-4 乳児の手術件数

より手術難度の高い乳児(1歳未満児)の手術件数の割合が増加する。

ベースライン 275件中29件 (10.5%)

1年次指標 303件中34件 (11.2%)

1年次実績 274件中38件 (13.9%) 【達成】

(※大使館コメントを踏まえ、2年次以降は「乳児の手術件数割合」ではなく「乳児の手術件数」を指標とすることを検討中。乳児の手術割合は母数である全体手術件数に影響され、技術の向上と乳児手術割合は必ずしも比例関係になく、外科治療レベルの向上を測定するには不十分であるため。)

#### 1-5. NPH 外科の教育的リーダーシップの割合

NPH 外科・手術部で受け入れた研修生数（医学生インターン、他病院職員、海外研修生等）

ベースライン 70 人

1 年次指標 77 人（10%増）

1 年次実績 112 人（60%増）【達成】

### 成果 2. クラチェ州において患者搬送体制が強化される

#### 2-1 クラチェ州病院への搬送

他病院、保健センター、保健ポストからの小児外科患者受け入れ件数

ベースライン 41 件

1 年次指標 47 件（15%増）

1 年次実績 調査中

→COVID-19 の影響により保健センターおよび保健ポストでの実績調査が直近まで行えず、感染状況を慎重に判断しながら現在調査中。

#### 2-2 保健センターからの搬送

選定した保健センターから上位医療機関への小児外科患者送り出し件数

ベースライン 3.3 件（13 件/4 か所）

1 年次指標 3.8 件（15%増、8 か所）

1 年次実績 調査中

→COVID-19 の影響により保健センターでの実績調査が直近まで行えず、感染状況を慎重に判断しながら現在調査中。

#### 2-3 保健センター職員の小児外科に関する知識

選定した保健センターにおける小児外科研修（「症状から学ぶ小児外科研修」）に参加した職員の人数

1 年次指標 40 人（8 か所）

1 年次実績 69 人（8 か所）【達成】

### 成果 3. 地域住民が小児外科に関する正しい情報に接し、適時に医療機関を受診する

#### 3-1 入院患者が情報を受け取る機会

クラチェ州病院外科で行われる患者教育に参加した小児外科入院患者およびその付添家族の人数

ベースライン 年間 75 人

1 年次指標 年間 336 人

1 年次実績 年間 342 人【達成】

→2年次は寝たきりの状態や離れた病床からでも耳を傾けたいと思えるよう、人々の実生活に即した関心を引くコンテンツに改良して参加者を増やすことを目指す。

#### 3-2 保健センターからの情報発信

保健センター職員による小児外科疾患の説明を受けた人数

1 年次指標 80 人（8 か所）

|                  |  |
|------------------|--|
|                  | <p>1 年次実績 ラジオ放送の視聴人数が 818 人（1 回、州内全域）【達成】</p> <p>→住民に対する小児外科疾患の知識普及は対面ではなくラジオを通じて情報発信を行い、当初想定よりも費用対効果の高い波及効果が得られた。この実証を踏まえ、2 年次は放送内容を外科医とともに改良し、子供を持つ親の手術に対する不安を解消できるコンテンツに改良する。</p>   |
| <p>(4) 持続発展性</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>- 本事業ではカンボジア小児外科を牽引する国立小児病院の医師・看護師が初期段階における指導役を担い、段階的に地方医療人材（クラチェ州病院職員や保健行政官）への指導・育成を進めることで、中央レベルに蓄積されている小児外科の知識・技術を地方レベルの医療体系に沿って浸透させながら普及を図るアプローチを取る。</li> <li>- このアプローチの核となる州レベルのカウンターパート 8 名を小児外科普及リーダーとして位置づけており、彼らがクラチェ州において長期的な小児外科の普及活動を担える体制を整備している。一年次はプロジェクト運営委員会への参画や、タイ医療視察への参加などを通じ、彼らの中で小児外科の重要性に対する意識の芽生えと、普及を担う責任感が顕れ始めた。保健センターにおける「症状から学ぶ小児外科研修」はこの普及リーダーたちが講師となり、自分たちの力で 200 人以上の保健スタッフへのトレーニングを実施できたことで、従前の学ぶ側の立場から教える側の立場へと変容を遂げた。</li> <li>- 更には、この研修の参加者が学んだ知識によって、近隣の小児外科患者の存在を訴えたことで、当該患者が病院で医師の診断を初めて受けることができ、手術を受けて機能を回復するに至った。普及リーダーがコミュニティレベルでの知識定着を図り、学びを得た保健センター職員等が患者を早期に発見し、適切に搬送できる体制が整うことでより多くの患者が州病院で治療を受けることができるという、本事業の目指すべき形の原型が示された事例であり、保健スタッフ自らが持続発展的に患者の発見から治療を担うことが期待できる。</li> <li>- 事業アプローチや成果などの経験値は、普及リーダーも参加するプロジェクト運営委員会に蓄積されている。同委員会は州保健局長が議長を務め、各公立保健機関長が参加しており、事業成果や実績の報告のみならず、課題解決にも共に取り組む。2 年次に向けて調整中の外科病棟建設についても、設計段階から合意形成を図っており、事業終了後を見据えた病棟活用を念頭に設計が進められた。</li> </ul> |



|             |  |
|-------------|--|
| 3. その他      |  |
| (1) 固定資産譲渡先 | 供与機材の譲渡時に州病院側との交換文書にて、機材詳細や維持管理担当責任者を明文化し、譲渡後の管理責任は州病院側が果たすことを確認している。  |
| (2) 特記事項    | 昨今の COVID-19 感染拡大を踏まえ、活動時、当財団職員にはオフィス内および病室でのマスク着用を徹底し、入室前後の手洗い・消毒を徹底させた。保健省の通知に従い、カウンターパートや患者との握手は控え、合掌による伝統的挨拶を実践した。 |

完了報告書記載日：2020年5月29日  
 団体代表者名： 理事長 飯島 延浩 (印)



【添付書類】

- ① 事業内容、事業の成果に関する写真
- ② 日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
- ③ 日本NGO連携無償資金使用明細書（様式4-b）
- ④ 人件費実績表（様式4-c）
- ⑤ 一般管理費等 支出集計表（様式4-d）
- ⑥ 外部監査報告書
- ⑦ 供与機材リスト



① 事業内容、事業の成果に関する写真



1-1-2 院内研修  
(講師:外科看護師長)



1-1-5 国内医療施設の視察研修  
(コンボンチャム州病院訪問)



1-2-1 患者統計データ収集  
(保健センターにて)



1-2-2 退院患者のフォローアップ  
(火傷の傷跡がほぼ残らず治癒している)



1-2-4 タイ医療機関視察研修  
(患者訪問)



1-2-5 プロジェクト運営委員会の開催  
(州保健局にて)



1-2-5 プロジェクト運営委員会  
病院サービス改善部会  
(東京事務所・小山から建設着工見通しの説明)



1-3-1 麻酔器の納品・引き渡し  
(右二人目:病院長)



1-3-2 詳細設計に基づく病棟完成予想図



1-3-2 病棟詳細設計の説明会  
(院長含む、カウンターパート向け)



2-2-1 保健センター小児外科研修  
(講師:小児外科普及リーダー)



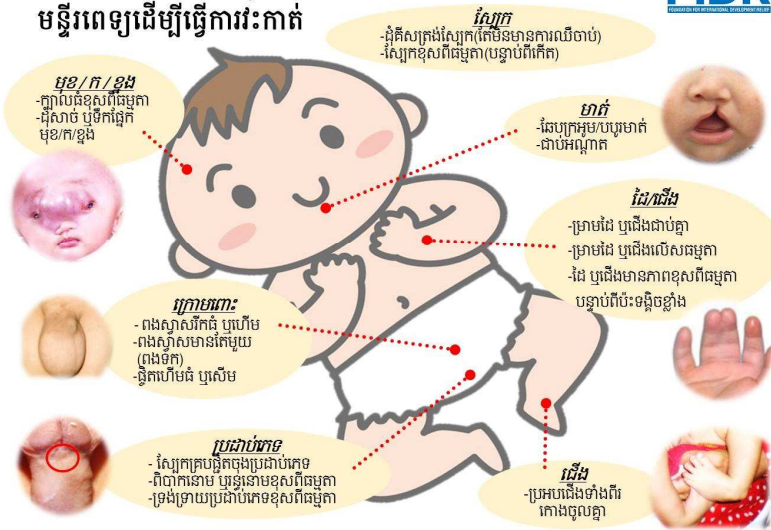


2-2-1 保健センター小児外科研修  
(講師:小児外科普及リーダー)



2-2-1 保健センター小児外科研修  
(参加する保健センター職員)

រោគសញ្ញាកុមារត្រូវបញ្ជូនទៅ  
មន្ទីរពេទ្យដើម្បីធ្វើការវះកាត់



2-3-2  
小児外科普及ポスター  
の作成



2-3-1 小児外科シンポジウムの開催  
(講師: 国立小児病院外科医)



前川書記官と加藤委嘱員の来訪





3-1-1 患者・家族への保健教育  
(講師:外科看護師長)



3-2-1 地域住民への小児外科啓発教育として保健スタッフとともに  
コミュニティFMを通じて情報発信(右:佐伯職員)

※いずれも 2020 年 1 月以前に撮影。

## 日本NGO連携無償資金収支表

団体名 国際開発救援財団 FIDR  
 法人番号 101000501999  
 事業名(実施国) クラチエ州における小児外科診療体制強化事業(カンボジア)  
 自 2019年3月1日 至 2020年2月29日 (贈与契約上の通貨)USD

|                      | 連携無償       | 自己資金 |
|----------------------|------------|------|
| <b>【収入の部】</b>        |            |      |
| 総収入                  | 237,666.00 | 0    |
| <b>【支出の部】</b>        |            |      |
| <b>1. 現地事業経費</b>     | 197,106.28 | 0    |
| (1) 直接事業費            | 109,343.90 | 0    |
| (ア) 資機材購入費等          | 94,629.00  | 0    |
| (イ) ワークショップ等開催費      | 12,688.82  | 0    |
| (ウ) 専門家派遣費           | 0.00       | 0    |
| (エ) 研修員招聘費           | 2,026.08   | 0    |
| (2) 現地事業管理費          | 87,762.38  | 0    |
| (ア) 本部スタッフ(駐在)人件費    | 36,476.91  | 0    |
| (イ) 現地スタッフ人件費        | 38,621.08  | 0    |
| (ウ) 現地事務所借料等         | 0.00       | 0    |
| (エ) 現地移動費            | 3,057.51   | 0    |
| (オ) 会議費              | 1,606.00   | 0    |
| (カ) 通信費              | 2,605.79   | 0    |
| (キ) 事業資料作成費          | 0.00       | 0    |
| (ク) 事務用品購入費等         | 1,579.86   | 0    |
| (ケ) 本部スタッフ派遣費        | 3,815.23   | 0    |
| (3) 情報収集費            | 0.00       | 0    |
| (4) その他安全対策費         | 0.00       | 0    |
| <b>2. 現地事業後方支援経費</b> | 149.06     | 0    |
| (1) 現地事業後方支援管理費      | 149.06     | 0    |
| (ア) 本部スタッフ(事業担当)人件費  | 0.00       | 0    |
| (イ) 本部スタッフ(経理担当)人件費  | 0.00       | 0    |
| (ウ) 会議費              | 0.00       | 0    |
| (エ) 通信費              | 149.06     | 0    |
| (オ) 事業資料作成費          | 0.00       | 0    |
| (カ) 事務用品購入費          | 0.00       | 0    |
| (2) その他安全対策費         | 0.00       | 0    |
| <b>3. 一般管理費等</b>     | 9,855.31   | 0    |
| <b>4. 外部監査経費</b>     | 1,551.00   | 0    |
| (1) 現地外部監査経費         | 0.00       | 0    |
| (2) 本部外部監査経費         | 1,551.00   | 0    |
| 支払実績                 | 208,661.65 | 0    |
| 総支出                  | 208,661.65 | 0    |
| 残高                   | 29,004.35  | 0    |
| 利息等                  | 0.00       | 0    |

※利息については、N連事業専用口座において発生した利息を指します。  
 (様式・項目名の変更等をしないでそのまま使用して下さい。)